

きぼう

2000年(平成12年)1月
第 20 号

この子等の幸せを考える親の会
檜の木グループ

事務局

〒494-0018 尾西市富田漆畑16番地

TEL/FAX 0586-61-6055

編集責任者：広報・研修部

年頭のご挨拶

社会福祉法人 檜の木福祉会
理事長 岡田春雄

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはよいお年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、本年はかしの木の里の開設の年となり、ここまで来ることができたのは、ひとえに関係者の皆様のお陰であります。改めてここにお礼を申し上げます。そしてまた、ハンディキャップのある人が施設や地域で暮らしていくためには沢山のボランティアや関係者・市民の皆様のご理解とご支援が必要でありますので、本年も檜の木の運営並びに地域の心身障害者の福祉に対してご協力の程よろしくお願い申し上げます。

皆々様のご健康とご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶と致します。



餅つき大会に集うー粘り強く行こう

年頭にあたって

この子等の幸せを考える親の会
会長 堀江昭夫

謹んで新年のお喜びを申し上げます。会員の皆様方にはますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに、平素は親の会の活動ならびに地域の心身障害者の福祉にご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

さて、本年は待望の生活施設かしの木の里の開設を迎えることになりました。これまでの国、県、尾西市当局はじめ、会員及び知人友人、企業団体そして多数の市民の皆様のご支援に深く感謝し、心より厚くお礼申し上げます。

かしの木の里は入所利用はもちろん、ショートステイの機能をもっているのです。家族が病気したり、また本人の自立訓練のために利用することができます。知的障害の本人や家族の状況は様々であり、この先いろいろな変化もあることでしょう。ですから、その時々に必要な利用ができることが本人にとっても一番いいと思います。

親としては、つらい思いと将来への不安は常に胸をよぎりますが、子供たちの将来のためにこれから様々な準備を引き続き進めていかななくてはなりません。

地域の障害者ひとりひとりが遠慮する事無く、胸を張ってこの生まれ育った地域で、安心して充実した暮らしが送れたらどんなにいいことでしょう。前会長の遺志を引継ぎ、これまで以上に、まず私たち親が、会員同士の相互学習や親睦を重ね、会活動を積極的に展開し、地域福祉の推進のために先頭にたとうではありませんか！



親の会で挨拶する新会長

お餅つき大会と、人形劇に参加して

師走も半ばの12月19日、恒例の餅つき大会と、人形劇が晴天の下多数の参加者たちと楽しく行うことができました。この行事を迎えるにあたり、12月8日の日に事業部会をもち、去年の反省を踏まえて役割分担や留意点などを話し合い見当をつけておきました。

当日の入所者たちは、掛け声大きく元気に餅つきをしたり、トヨタ合成労働組合ボランティアの皆さんたちが準備して下さったゲームを満喫、有効の時間が広がったように感じました。

保護者の皆様方も、さすがベテランの主婦ばかり、餅つきの準備やおはぎづくりに、和気あいあいとかつ手際よく次々と出来あがっていきました。

けれども、今年は前理事長さんの元気なお姿がなく本当に淋しい限りでした。

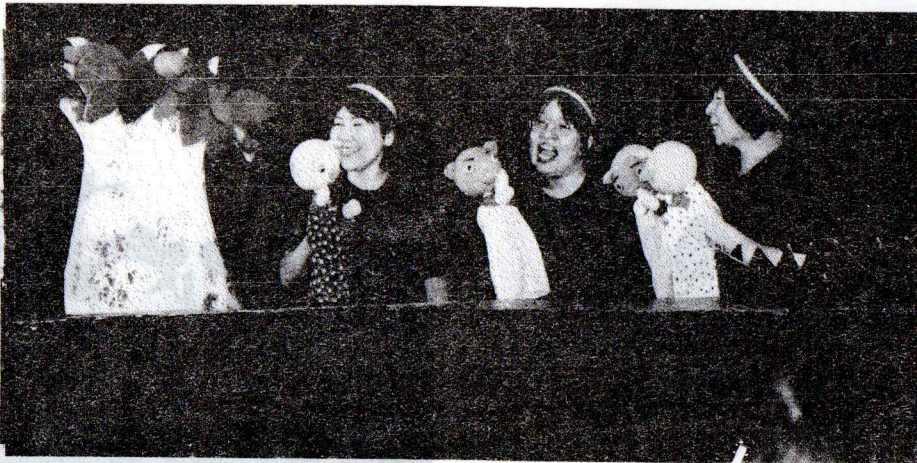
搗きあげし 一臼供ふ 仏前に

早速できたお餅を供えさせて頂き、感謝申し上げます。

午後は、檜の木園に移動して『たまごやき』さんの人形劇を見させて頂きました。演ずる人と見る人と一体となり楽しく満足感溢れる姿に、心も和む一時でした。

とかく人との交流の少ない障害のある人にとって、有意義な一日として脳裏に深く刻まれることでしょう。また来年は、檜の木の里の入所者も増えてまたひとつ楽しい行事となることでしょう。

ボランティアのみなさんをはじめ、先生方、役員の方、保護者の多数の皆さんのご協力に深く感謝いたします。本当に、ありがとうございました。



人形劇観賞

《収益事業部》

99年末物資販売 ご協力 ありがとうございます

今回も皆様からたくさんのご注文を頂き、おかげさまで289,580円の収益を上げることができました。ありがとうございました。

皆様のご理解があつての活動です。今後ともよろしくお願いいたします。

- 売上ベスト3
- ①ビーフカレーデラックス
 - ②喜多方ラーメン
 - ③こぶ巻き昆布

【バザー売上報告】

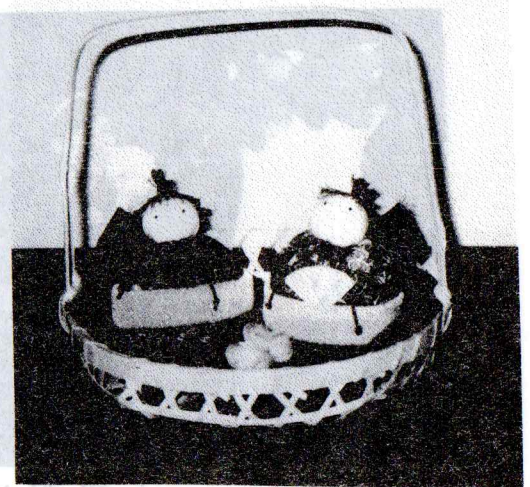
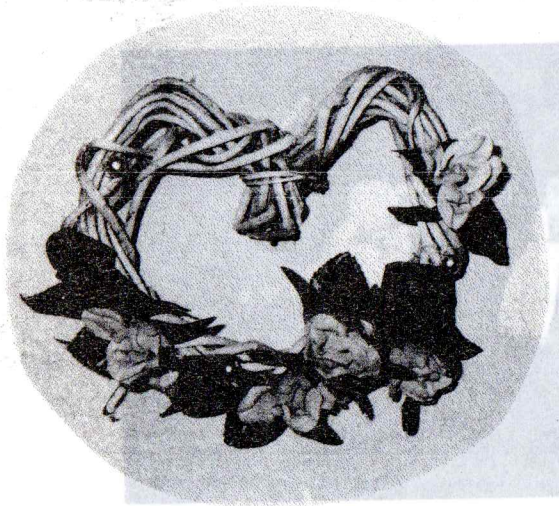
11/21	コスモス祭り	¥ 24,630
12/1	尾西福祉フェスティバル	¥ 32,290
12/5	ときわバザー	¥ 34,910

各販売先の皆様ありがとうございました

【バザー今後の予定】

2/6~8 松坂屋 福祉の店

すてきな **バレンタインリース** と かわいい **おひなさま** はいかが？



350円より

1000円 (かご付き)

合宿で共感！

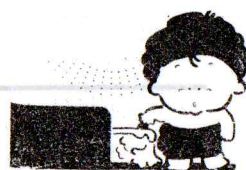
私がいつもお仕事を一緒にさせて頂いているIさんは、月1回合宿を行なっています。ご本人の家庭の事情と自立への大切なステップとして、檜の木園ではなく、合宿所であるアパートで行なっています。私が檜の木園に来て初めての合宿がIさんとのアパートでの合宿でした。始めのうちは、いつも慣れ親しんでいる檜の木園ではないので、夜なかなか眠れなかったり、食事やトイレ、入浴などで戸惑いがみられました。私も1対1の初めての合宿ということで、おろおろしたり、動揺したり、Iさんと共に戸惑うこともしばしばでした。そんな状況のなかでも同じ作業室の職員に励まされたり、助言を求めたり、そして何とんでもIさん自身の頑張りに刺激されながら、早2年続けて来ました。

一口に2年と言っても毎回同じような合宿が続いている訳ではなく、日曜日に合宿があり、一緒に養老の滝へ行ったこともあります。その日は朝早くからIさんと共にお弁当を作りました。日頃作る料理とはまた違い、おにぎりを作って、海苔を巻いたり、ゆで卵をチューリップに切ったり、りんごをうさぎの形にしたりと、二人で楽しみながら作りました。養老の滝では急な坂道を「疲れた。足痛い」と言いながらも頑張って歩きぬきました。

養老の滝以外にも、一緒に名古屋港水族館へ行ったり、ラーメンを食べに行ったり、葡萄狩りに行ったり、楽しい思い出と経験をいっぱいしました。たくさん共に経験した中でも私がとっても好きで楽しかったのは二人で銭湯へ行ったことです。

日頃は合宿所のお風呂へ入るのですが、仕事のない休日に合宿をした時は、二人でよく行きました。日頃は自分の体しか洗わないIさんですが、銭湯へ行くたびに「背中流したろうか。」と言って背中を洗ってくれたりします。また二人でジャグジーや露天風呂などに入って、随分長い時間いろいろな話をして過ごすこともあります。話をしている内容は、家族のことや、買物学習のこと、他の利用者の人達のことなど、様々ですが、日頃の慌ただしい仕事の時とは違い、二人だけののんびりとゆっくりとした時間を過ごします。この時間が私はとっても好きで、いつまでも入っていたくなってしまう。

私がIさんとの合宿を通して、利用者の方と共に経験することや過ごすことは、その方自身の持つ力を引き出すだけではなく、私達職員が利用者の方の隠れた力と素晴らしい可能性に驚かされながら、共感し、自分自身を見つめ直す機会ではないかと思っています。Iさんだけに限らず、他の利用者の方とも共に過ごし、経験し、共感できることを大切に、毎日を頑張っていきたいと思っています。



ヒトゲノム計画をちょっとだけ考える

“ヒトゲノム計画”。最近、よく耳にする言葉です。人の遺伝情報（DNAの配列）を全て解読してしまおうという計画で、もう10年程前から進められているらしいです。その解読は随分と進んでいて、医療の大きな進歩として期待されているようです。例えば、その人が将来どんな病気にかかる可能性があるかと言うような事が分かり、早期発見や予防に役立つのです。ここまで進歩した科学にある種、怖さすら覚えますが、先日、このような記事を中日新聞で見付けました。

「幸せです ダウン症児との暮らし」と題し、ダウン症児との関わりについて綴った記事です。その記事の抜粋です。“胎児に染色体異常が起こる確率を簡単に調べられる「母体血清マーカー検査」が数年前から医療機関に普及し始め、同協会（＝日本ダウン症協会）は厳しい規制を求めてきた。自分たちの子と同じ染色体異常の子の命が、選別の対象になるのは、いたたまれない。障害者の中絶が当たり前の社会になったら、差別がますます助長されるという思いからだ。—中略— 当事者が声を上げることで、偏見が少しずつ取り除かれ、社会との「いい関係」を築いていけると…”

また、先輩職員から薦められた本、福井達雨先生の「生命をかつぐって重いなあ」の中でも次のようにあります。



檜の木コーナー

“障害児出産原因で、遺伝はどんどん少なくなり、後天性の障害児が増加している。それはさておいて、たとえ遺伝の子であったとしても、誰がその生命をおかすことができようか。弱い子であればあるほど、私達は深い連帯をもたなければならない。日本という国は、障害をもった人達や老人に冷たい国であり、日本人は頭の良さだけ誇って、平気で心を捨てていく人種に思えてならない。その中で、障害者が生まれることをのろい、生まれない前に、それが判れば、人工中絶をした方がよいと考える人も多い。一中略一障害児が生まれても、不幸にならない社会づくりや、人間の心づくりが大切であるにもかかわらず、そのようなことは、ほとんど忘れ去られていこうとしている。悲しいことである。”と。

“ヒトゲノム計画”により、医療が充実するのは素晴らしいことであり、多くの人が、その恩恵を受けて生きていくのでしょ。しかし、それと同時に、障害者の命を選別するという愚行を助長するような危険性が少なからずあるのではないだろうか、と大いに心配します。障害者の命が選別されるということは、障害者の存在意義を否定することであり、それは障害者と共に生きる社会を目指す我々には許し難いことです。我々は当事者として、もっともっと声を上げなければいけないのです。偏見を少しずつ取り除いていかなければいけないのです。そしてまた、医療の進歩には大いな期待を寄せますが、それは最低限人道的なものであって欲しいと願います。障害者の存在意義すら認めることができない貧困な社会ではなく、障害者と共に生きることのできる、健全で、心豊かな社会をつくることを、もっともっと伝え、広げていきたいと、日々思っています。

檜の木作業所 指導員

かしの木の里 内覧会のご案内

— どなたでも、ご気軽にお越し下さい。

いよいよかしの木の里の建設も完成間近か、関係者はじめ一般市民の皆さんに施設を見て頂くことができます。とりわけ地域の障害を持つご家族の皆さんにはぜひ見て頂けたらと思っています。市内には在宅で小さく日々を送っておられる方もたくさんおられます。この市内の、多数の皆さんのご支援により実を結んだ知的障害者のための福祉施設をこの機会に訪ねて頂ければと願っています。

施設名 社会福祉法人 榎の木福祉会
かしの木の里

- 日時**
- ① 平成12年3月4日(土)
午後2時より午後4時まで
 - ② 平成12年3月5日(日)
午前10時より午後3時まで

場所 尾西市富田字砂原2147番地
(尾西グリーンプラザ北200M)

その他 榎の木20周年記念誌もお求め下されば幸いです。

お問い合わせ先 榎の木作業所
電話：0586-61-6055

